

令和7年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	小学校学校運営協議会		
開催日時・公開等	令和8年	3月28日	(土)
会議の公開等	公開	(非公開理由)	
開催事前告知	令和8年	3月18日	(水)
開催後議事録等の周知	令和8年	3月28日	(土)
出席者	学校運営協議会会長(山田 和子) 副会長(奥 康秀) 多治川 勝 今井 薫 事務局:校長 傍聴者:なし		
欠席者	なし(半数以上の出席なので会議成立)		
案件名	1. 開会の挨拶(校長より) 2. 今年度の取組状況の報告 3. 質疑応答		
提出された資料等の名称	① 令和7年度学校評価報告書 ② 令和7年度後期ストレスチェック結果分析 ③ 本校新キャラクター(予定)		

会議内容

<p>1. 開会のことば(校長より)</p> <p>2. 今年度の取組状況の報告 資料に沿って、今年度の取組状況と報告を行った。</p> <p>3. 報告書の内容に対する質疑応答、並びに評価結果・改善策についての話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価実施報告書の内容については、その取り組み内容について承認いただくとともに、高く評価していただいた。 ・ 取組内容の説明を補足する資料として、今年度の後期ストレスチェックの結果分析を用いて業務改善や職場環境に関する説明を行った。良好な結果(総合健康リスクが後期70.3)について評価いただいた。また、詳細な分析と職員に対するフィードバックを行っていることに対しても同様に評価いただいた。 ・ 授業や家庭学習のあり方が変わりつつある中で、児童の理解度に関する二極化が進むのではないかと、あるいは、そのような対応を求められる職員の負担感が高まっているのではないかと懸念が示された。児童の理解度については、本校で今年度から取り組んでいる自己調整学習や個別最適な学びを推進する中でもまさに課題になる点である。それに対し、そのような差を一人ひとりが克服可能になるような形に整理し、教師がサポートできる環境を創ることが大事であり、その点においては、教師のファシリテーターとしての役割がより重要になると説明。職員の負担感については、様々な取り組み方が変わっている中で新たに学ぶことは多くなっているが、研修や日常の学び合い、あるいはICTの活用によって本来的な業務の時間確保に努めることで全体的な負担感を軽減していくことが必要と回答。 ・ 報告書にある学校と地域の協働、あるいは、地域資源の持続可能な連携体制に関して、福祉委員でもある委員からこども食堂や寺子屋といった週末の活動について説明があった。参加率や参加者の固定化、または、弁当が本来、必要としている児童に渡っているのかという課題がある。より多くの利用者を集めるために、学校と連携してこれまで以上の周知活動を行うことで合意。別の委員からは、土曜の午前中は、習い事に通う児童が多いことも低参加率の一因ではないかとの意見があった。 ・ 校長から、児童の手描きの似顔絵をもとに作成した来年度に向けて本校の新キャラクターとして予定しているイラストを提示。 <p>4. 閉会</p>

※教育指導課に提出後、HP、ブログ等で公開してください。